

ICT 活用連続講座 第一分科会 参加報告

堺市立福泉中央小学校 藤井澄江

定員40名とのことでしたから、難しかったら途中でリタイアしようと軽い気持ちで申し込みをしたのですが、事前に講師先生からファックスやメールでご連絡をいただき、参加者が7名（実際は9名でしたが）ということがわかり、抜けられない状況であることが判明しました。ですので、片道2時間をかけて重いパソコン持参で、落ちこぼれながらもなんとか3日間通うことができたのかもしれない。



第一日（8/13）

参加者一人一人が自己紹介

- ・担当している子どもたちの様子、そしてこの講座で何をしたいと考えているのかを発表
- ・バラエティに富んだ子どもたちの様子やそれに対する手立てについて、アドバイスをいただきました。

パソコンに「ユーザー補助」という機能があって、マウスやキーボードでの入力の方法についての設定を細かく変更できることを教えていただきました。

マウスの改造（実技）

障害のある子どもたちが触るだけで反応するスイッチを接続できるように、市販のマウスにドリルで穴を開けたり、線をハンダ付けしたりして接続口を取り付ける作業でした。私は、細かい作業に悪戦苦闘で、ほとんど手伝っていただいて完成しました。



第2日(8/14)

何をしたいのかを発表

昨日のアドバイスに従って、2学期からの授業に活かせる「何か」を一人一人作成しましょうということになり、その構想を発表しあいました。コミュニケーションカードを作る人、買い物学習用の教材作りをする人、日課提示用のプレゼンテーション作りをする人など、それぞれの課題を出しました。私は、児童がワンプッシュで場面展開できる絵本を作ることにしました。

教材の作成

スキャナを使って既成の絵本「バナナです」を取り込み、パワーポイントを使ってスライドショーにしました。オートシェイプの吹き出しでセリフを挿入する途中で時間切れになりました。

第3日(8/15)

昨日の制作の結果・途中経過を提示し、2学期の学習にどう活かそうとするのか発表

パワーポイントを効果的に使用してとても上手に仕上げた方や、ボードメーカーでのカード作成が成功した方がありましたが、絵本を作成した私を含めて4名は、音声を入れることが難しいこともあり、不十分な出来上がりでした。でも、その気になればこういう風に教材作成ができるんだということは学習しました。私が必要としているのは、ワンプッシュでページをめくらせることではなくて、児童が自分でマウスを動かして選択肢を選ぶことなのだと気づき、既成の教材ソフトの中でそれに近いマウスの動きを作れるものがあることを教えていただきました。

三日間を通して学んだこと、感じたこと

「ユーザー補助」で、パソコン自体が障害の状況にかなりの対応をしてくれること。

筋ジスの児童が将来必要になるスイッチ類にいろんな種類があること。

堪能な方が作成してくださった「教材集」があって、すぐにも使えそうなこと。(うれしい!)

パワーポイントの使い方ももっと学べたらよかった。でも、何をしたいのか、児童に何をさせたいのかをしっかりとつかんでおかないと駄目なんだという事も分かりました。「発想」「センス」を研ぐことはかなり難しいですね。ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。

